



サラダボウルの国カナダの中の日系老人施設を訪問して

北海道 緑ヶ丘老人ホーム 津田利幸

私は、その国の社会保障の1つの柱である社会福祉は、その国の文化・風土に即したものでなければならないと考えている。人の生活の根幹に関わる福祉の施策は他国で成功しているから自国もうまくいくとは限らないと思っている。

カナダはサラダボウルの中に入っているさまざまな野菜のピースのように、この国の中にはさまざまな人種、民族（150カ国からの移民受け入れ）が入り乱れ、一国を形成しており、それがうまく調和がとれているところにこの国の偉大さを思う。また、この国は連邦政府と州政府からなり、州政府は大きな権限を持っている。

私の報告するモミジヘルスケアソサエティはカナダ最大の都市であるトロント市に施設がある。トロント市は1,140万余人が住むオンタリオ州にあり、1998年に6市が合併して現在約250万人が住む高層ビルの立ち並ぶ近代都市である。その中で、日系社会を形成している人が17,500人と言われ、その内6,500人が高齢者とのことである。それに比べ中国系社会は52万人を擁しているとのことで、後述するが異国に住む同じ東洋人として緊密な関係の一端を見ることができた。

モミジヘルスケアソサエティを訪問し、施設の責任者であるピアギータ・ロバートソン所長よりレクチャー、施設内の案内を受け、その後質疑応答というプログラムの中から私なりに記述させていただく。この協会は1976年に設立され、その後非営利慈善団体の認可を受け現在に至っている。設立の目的は日系高齢者の健康管理を主眼として、ボランティアおよび専門家によるサービスの提供、お世話、高齢者が可能な限りそれぞれの住居内で独立した生活を営むように支援、援助することにある。そのサービス内容は大きく分けて

- ①ミールオンウィール（自宅への和食配達サービス）
- ②無料訪問サービス（自宅へ訪問し、相談や話し



施設内に掲げられているボランティアの方々へのメッセージ

相手となる。また簡単な掃除や洗濯、入浴手伝い等)

- ③送迎サービス（日英両語できるスタッフによる送迎。スーパーへの買い物や病院、日系施設への訪問、利用等）等がある。

訪問した施設は1998年に日系人社会の寄付で土地を購入し、9階建てで1～2階が上記した事業を展開しており、多目的のホールや趣味活動室、食堂等の設備があり、掲示板には英語、日本語が併記してある。廊下、ホールは日本情緒あふれ郷愁をそそるものがあつた。また、管理下に併設している「モミジシニアセンター（日系老人ホーム）」がある。3～9階がそれで、ケアハウスのようなアパート形態で州政府の資金で賄われている。現在158人が施設を利用して生活しており、同ソサエティは公益法人で運営している。サポートスタッフは15名ほどのことであるが、ボランティアの支援がなくては運営が成り立たないとのことである。また、キャスルビュー（医療設備のある老人ホーム）や前述した中国系社会組織が経営するイーホンセンター（高齢者医療センター）には日本でいう特養形態のベツトを40床確保してもらい、協力関係をもっているとのことである。日系人社会にはまだそれだけの力がないとのことであるが、規模は小さくても人生の最終ステージに日本語が通じ、日本食が食べられることが心の安定につながると聞き、納得するものがあつた。